

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホーム燦燦とざわ)

事業所番号	0672500600		
法人名	有限会社 カワムラ		
事業所名	グループホーム燦燦とざわ		
所在地	山形県最上郡戸沢村大字津谷字鞭打野2096-1		
自己評価作成日	平成25年 10月 31日	開設年月日	平成 17年 3月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

おひとりおひとりを知り、その方が持てる力を上手に発揮できるよう支援しています。利用者と会話することを何よりも大切に、個々が望む介護を目指して、利用者と職員の信頼関係づくりを心掛けています。その中で個別ケアに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居間は窓が大きく取られ、開放的な雰囲気の中で、職員と利用者が生活を楽んでいるような感じがし、利用者・職員、利用者同士での会話が弾み、食事後には懐かしい歌や、民謡が唄われる等、和気あいあいとした生活空間が作られている事業所である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19番6号-2F		
訪問調査日	平成 25年 12月 5日	評価結果決定日	平成 26年 2月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		0	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員全員でつくり上げ、またいつでも理念を見て共有し、実践できるようホールに掲示しています。	利用者に愛を持って接する事を念頭に昨年職員の話し合いで「あい燦燦」を理念とすることとした。利用者とともに共有できるようにホールに掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お天気のいい日は近所に散歩やドライブ、イベントに出かけ、積極的に地域へ出ています。その中で地域との交流が自然と生まれています。また、行事を通して地域の方々とのつながりを大切にしています。今年も多くの方々にお越しいただくことができました。	地域柄地域の人達との関係はよく、散歩や地域の行事への参加等が積極的に行われ、地域との交流が深まっている。	更に地域との関係性を深める為に、事業所の特性を生かした地域の人への情報提供等を期待する。(認知症サポーター養成講座)等	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	デイサービス事業を行うことで、地域の認知症ケアに貢献しています。グループホーム燦燦を知っていただくことから、認知症を分かってもらえるよう努めています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では近況報告、地域の情報共有について話し合いを持っています。実際に顔を合わせることで、連携が強くなり、施設運営の方向性を明確にしていけることができています。	健康福祉課2名、区長、民生委員2名及び家族の参加で定期的に開催されている。課題は事業所の行事、報告が主になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の連絡調整会議、勉強会に積極的に参加して市町村担当者の方と情報交換を行っています。また、こちらの運営推進会議等にも参加していただいています。	行政の担当者とは運営推進会議を通し、又、2週間に1回包括支援センターの会議参加し行政との連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束しないケアを職員全員共通理解し、徹底しています。見守り重視の体制で職員全員で取り組んでいます。	現場での指導、職員自身のサービスの振り返りを行い身体拘束しないケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人一人が利用者のきめ細かく状態観察に努め、心身の健康を見守っています。相手の立場に立った考え方を大切にしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての理解は不十分に感じています。今後、機会をつくり職員全体で学習して活用できるようにしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は重要事項を十分に説明し、また変更があった場合にはその都度家族、利用者へ説明と報告をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており、また家族よりご意見等あった場合はその都度、職員全員で話し合いを行い、改善に努めています。	ほぼ全員の家族の来所があり、面会時に家族の意見を聞くようにしている。面会時のアンケートの工夫で意見箱の活用に繋がる。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングと毎月末に定例ミーティングを設けています。その中で出た意見は大切にし、施設運営に活かしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に訪問し、現場の状況をよく見聞きすることで、職員の勤務実績の把握に努めています。そして、それを基にして職場環境の改善へとつなげています。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が様々な研修へ参加できるよう機会を確保しており、ミーティング時に全体で報告勉強会を開いています。また、資格取得に向けても積極的に対策研修・試験への参加を勧めています。	2週間に1回の包括支援センターの研修、GH協の研修、個人の希望による研修への参加が行われている。月1回のミーティング時に研修に関する報告会を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	包括の会議・研修会、グループホーム交換研修、最上連絡協議会、庄内連絡協議会に前向きに参加し、情報交換を有意義に行っています。	GH協議会や包括支援センターでの会議、交換実習への参加等を通して他事業所の情報を得てサービス向上に役立っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談にて不安なこと、希望することを詳細にお聞きしています。居心地がよくなるように良く話すことを大切にしています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談にてご家族様の思いも本人同様にしっかりと受け止め、家族関係の維持を念頭に置いて、お互いが良い方向に進んでいけるように努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中で何を必要としているのかをつかみ、他サービスとも十分に連携を図りながら対応しています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築き、受容と共感の姿勢を忘れず、日々の生活の中にある喜怒哀楽を共にし、本人のペースに合わせて支援しています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の交流を大切にし、また電話での報告も密に行っています。家族の考えをよくお聞きして、信頼関係を深め、一緒になって本人を支えていけるようにしています。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	幸いにも馴染み方の面会がありますので、その機会を大切にしています。また、馴染みの場所にも機会をつくり行けるように支援しています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごされる時間を大切にはしていますが、できるだけフロアで皆様と過ごしていただけるように声掛けしています。職員が利用者みなでお話できるような間に入り、不安なお気持ちにならないよう配慮しています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を取り、また訪問してお話を伺うことにしています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の思いをお聞きすることを大切にしています。時間をつくり、おひとりおひとりと関わる時間を大切にしています。	昼食時や他の時間も職員と利用者のコミュニケーションがととてもよく、和やかな雰囲気の中で利用者の思いが聞き取られている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネや家族より事前に情報をしっかりと得て、また本人より日常会話のなかでこれまでの暮らしをさりげなくお聞きし、情報収集しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日利用者の現状を注意深く観察し、記録しています。それを基にして職員全員が把握できるよう申し送り会を毎朝開いています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を第一、加えて職員の意見も反映させた介護計画の作成に取り組んでいます。特別に変化が生じた場合は随時、見直しや変更を行っています。	介護計画の目標等がわかり易く又記録がしやすいように立案されていて、モニタリングも行っていた。家族、利用者等にも理解しやすい計画となっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別記録へ様子を記入して職員全員が把握できるようにしています。また毎月、介護計画の実践記録を作成して、項目をチェックしています。それを見直しと計画作成に役立てています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>			
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の方の協力により、定期的にボランティアを依頼したり、行事を企画したりしています。また、地域のイベントに出掛けてもいます。その中で地域との交流を図りながら豊かに暮らせるように支援しています。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医に月に1回往診に来ていただいています。その都度一人一人の状態を診察いただき、指示を受けています。利用者、家族共に安心されています。</p>	<p>かかりつけ医へは家族対応となっており、現在は2名の利用者がかかりつけ医に通院している。通院時には情報を提供。その他の利用者は協力医による月1回の往診で受診している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週に2回看護師より来ていただいております。利用者の状況を報告したり、日常の健康管理や支援を受けています。また特別に変化があった場合は、看護師へ連絡を入れ対応していただいております。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>早期に退院できるよう、病院関係者との情報交換や相談に努めています。また、協力医療機関への連絡や相談を適切に行っています。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合については、ホームの方針を家族にお伝えしています。その際に、確認できるよう書面を作成しています。現在、終末期に向けたケアは実施していません。随時、改めてその胸を再度お話している状況です。</p>	<p>入所時に重度化した時の指針を説明して同意を得ている。終末ケアは事業所では現在は行っていない。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングを通して応急手当や初期対応の勉強会をしています。さらに実践力を身に付けるために訓練を通して実践力を養っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、指導・助言をいただく機会をつくっています。夜間想定や火災訓練を行っています。	3月(夜間想定)10月(日中)避難訓練を実施している。月1回は防災の点検を行っている。緊急時の手順は文章でなく一目でわかるような表示が期待される。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別に関する情報を守るため、職員とパート職員全員が契約書に署名・捺印しており、プライバシーの確保を徹底しています。	不適切な言葉や対応が合った場合、現場で気づいた時に都度注意するなどOJT方式で指導をおこなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを日常会話の中から汲み取り、個別ケアにおいてしたいことや食べたいものが食べられるように担当職員が中心となって実践しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切にし、日々の暮らしがその人らしいものになるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で好みの服を選んで着られるように支援しています。ご自分で決めることが難しい方には、声掛けしながら一緒に準備しています。理容は本人の好むお店を利用されています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者からも食材の下ごしらえや切り方、盛り付け等を一緒に行っていただいています。下膳や茶碗拭き等の片付けも積極的にしていただいています。	調理員(月20日)が採用されて食事を作っている。その他は利用者と職員で協力しながら調理している。利用者の中に調理が得意な人がおり、積極的に調理に参加。下ごしらえは他の利用者も参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの状態に応じて食事を作り、毎食の食事量水分量をチェックして、健康管理の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個別にあった方法の口腔ケアの声掛けと誘導を実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間を見て定期的にトイレ誘導をきめ細かく実施しています。	排泄パターンの情報は取っている。日中夜間共にはリハビリパンツの利用で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、散歩、体操など身体を動かす働きかけを多く行い、健康に排泄できるように取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴する曜日が決まっており、希望に合わせる事ができていません。しかし、利用者が曜日入浴に慣れ、無理なく入浴できていると感じています。ひとりひとりがその日ゆったりと入浴できています。	週2～3回の入浴が行われ、利用者も満足している様子。拒否する利用者も現在はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝は各自のお部屋で休まれたり、皆のいるところを好む方はソファーで休まれたりと様々です。また、夜は早めに休まれる方もいれば、ゆっくりホールで過ごしてから休まれる方もいます。個々の希望にあった時間で休めるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の薬の説明書をファイルに綴じて職員全員が理解できるようにしています。服薬は毎食時に本人に手渡し、服用の確認まで実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの役割を大切にしています。洗濯物たみ、食器拭き、掃除、畑仕事など個々が力を発揮できるように様々なものを準備しています。また、レクや運動、散歩、ドライブなど利用者それぞれが楽しめることを企画するようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は、散歩やドライブすることで気分転換していただいています。また、年に2回の小旅行や個別ケアを計画して普段は行けない場所へ行けるように支援しています。本当にいきたい場所へ行けるようにもっと力を入れていきたいです。	春、秋にドライブの外出が多い年2回の小旅行は今年は尾花沢等に出かけた。個別ケアで外食も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる方はご自分で持っていていただき、買い物を楽しまれています。管理できない方はこちらでお預かりして、外出時にご自分で選んでいただき、可能な限りお支払まで出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望通り電話できるように対応しています。手紙や年賀状のやりとりもできるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く自然の陽がたくさん入り、風通しも良く、快適に過ごせる空間を提供しています。ホールや玄関には季節感を取り入れたものを飾り、目で見ても楽しめるように工夫しています。また、過ごしやすいうように清掃や整理整頓を徹底しています。	共有の居間には炬燵が置かれ、デイサービスの人達とも一緒に居心地の良い環境である。大きな窓が外の風景が見られ、地域の中で生活している実感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席だけではなく、コタツやソファを置いて、それぞれが自由に過ごせるように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族のご協力により、各居室には利用者が使い慣れた物や好みの物を持って来ていただき、気分良く過ごしいただけるような工夫をしています。	安心して生活できる工夫が見られる。写真や使いなれたものが置かれている、家族にも協力を促している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置と廊下のバリアフリーを活用して、ご自分の力を活かして生活できるような介助をしています。また、各トイレや浴室等の場所表示を大きくして工夫しています。		